

株主メモ

事業年度	3月1日から翌年2月末日まで
定時株主総会	5月
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日 中間配当金 8月末日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定め た日
公告方法	電子公告により行います。 ただし、電子公告を行うことができない事故その他 やむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に 掲載いたします。
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 取扱場所	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先) 電話お問合せ先	東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部 ☎ 0120-176-417

株式会社テイツー

IR窓口:東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パークA館8F
TEL (03)5408-5532 メールアドレスir@tay2.co.jp

インターネットホームページ <http://www.tay2.co.jp>



株主の皆様へ

第20期報告書

(2009年3月1日～2010年2月28日)

株式会社テイツー



代表取締役社長 大橋康宏

Q 2010年2月期の業績についてお聞かせください。

A 2010年2月期は、古本市場事業におきまして、一部店舗の大規模な店舗改装を行い店舗競争力の強化に努めたほか、新しいPOSシステムを古本市場全店舗に導入し、店舗オペレーションの効率化を図りました。また店舗賃料の減額交渉などにより、固定費削減においても一定の成果を収めることができました。アイ・カフェ事業におきましては、各種販促活動に努めると同時に、業務の効率化を図り人件費などのコントロールを行いました。EC事業におきましては、長年使っていたサイトブランドを一新し、「古本市場オンライン」としてリニューアルオープンいたしました。

こうした結果、厳しい経営環境ではありましたが、経費削減を中心とした継続的な経営努力が奏功し、当連結会計年度の連結売上高は417億6千万円（前期比0.4%増）、連結営業利益は12億6百万円（前期比34.7%増）、連結経常利益は11億2千4百万円（前期比33.1%増）と増益を達成することができました。また、減損損失や事業構造改善費用等の特別損失を計上した一方で、子会社2社を吸収合併したことにより、被合併会社の繰越欠損金を引継ぐこと

による税額の減少及び税効果会計等の影響もあり、連結当期純利益は7億4千1百万円（前期比436.7%増）となりました。

Q ティーツーグループの成長戦略についてお聞かせください。

A 当社グループは、中期的な成長戦略の基本的な考え方として「人財育成の強化」、「中核事業の進化と拡大」、「新規事業・新規市場の創出」の3つの方向性を明確化しております。

まず、企業の成長は人の成長という認識の下、「成果主義から貢献主義へ」をテーマに、会社及び社会への貢献ができる人、人を育てる人を評価するという方針で人事制度を抜本改正するほか、能力開発の支援、教育研修プログラムの充実を図ってまいります。

この人財育成を土台として、既存の中核事業である古本市場事業の一層の進化と拡大を図ってまいります。進化の方向性は、リアル店舗とオンライン店舗の融合にあります。当社グループは今後、

お客様の満足をより一層高めるために、在庫管理レベルの向上や新規業態の開発など、全社の売上向上につながるビジネスモデルの構築を進めてまいります。

これらの戦略を着実に推進しつつ、新規事業の開発と新規市場の開拓にも取り組んでまいります。現在当社グループが運営している業態・商材と相乗効果を生み出せる新規事業を検討することに加え、新しいドミナント・エリアの開拓や海外市場への拡張も視野に入れ、今後の当社グループの成長を実現してまいります。

Q 2011年2月期の業績見通しをお聞かせください。

A 2011年2月期は、消費マインドの低迷を背景として個人消費の回復が見込み難いことなどの影響で、当社グループにとって厳しい経営環境が続くものと考えております。こうした環境の下、当社グループは2011年2月期を中長期的な成長の基盤を作る1年にしたいと思います。

古本市場事業におきましては、より一層のコスト管理と、効率的な店舗オペレーションの確立に向けて努力してまいります。なお、店舗・ECの在庫管理レベルの統一や物流センターの統合による在庫の有効活用などを視野に入れ、今期に引き続きリアルとオンラインの融合をより具体的に進めていくことにより、お客様に幅広い満足を創造してまいります。

アイ・カフェ事業におきましては、地域性・独自性を活かしたサービス・施策の実施や、店舗に設置されているPCを活用した新しいビジネスモデルの構築により、売上拡大に努めてまいります。また、店舗業務の効率化、本部費用の徹底的な見直しによるコスト削減を引き続き行い、利益確保に努めてまいります。連結子会社であるインターピア株式会社におきましては、店舗運営における売上向上やコストダウンをテーマとする新規サービスの拡販を推進してまいります。

EC事業におきましては、買取強化、品揃えの充実、モバイル機能の強化などを含む抜本的な販売力の強化に注力し売上向上に努めるとともに、今後の業績改善と事業の成長を見据え、次期のECシステム構築も検討してまいります。

これらの取り組みにより、2011年2月期の連結売上高は、420億円（前期比0.6%増）を見込んでおります。利益面においては、人財育成、新規事業・新規市場創出などに伴う先行費用増加により、連結営業利益は10億5千万円（前期比13.0%減）、連結経常利益は10億円（前期比11.1%減）、連結当期純利益は5億円（前期比32.6%減）を見込んでおります。

古本市場事業

古本市場事業におきましては、一部店舗の大規模な店舗改装を行い店舗競争力の強化に努めたことなどにより、売上の拡大を図ってまいりました。また、古本市場全店舗に新しいPOSシステムを導入し、店舗オペレーションの効率化を図るとともに、店舗賃料の減額交渉など固定費削減においても、一定の成果を収めることができました。新規出店としましては、古本市場高槻春日町店（大阪府）、古本市場新小岩店（東京都）、古本市場春日部緑町店（埼玉県）、古本市場長吉長原店（大阪府）の計4店舗に加え、Family Mart南千住八丁目店（東京都）の出店を行いました。

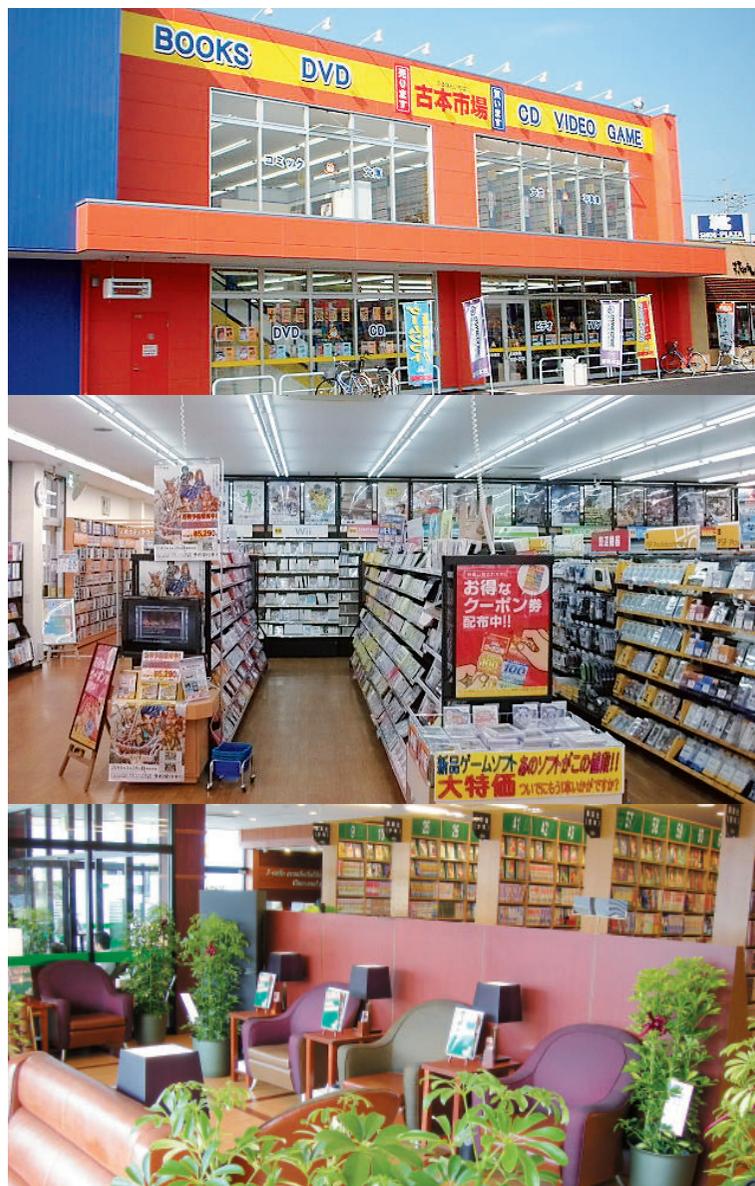
上記に加え、株式会社ユーブックの吸収合併効果を高めるため、リアル（古本市場事業）とオンライン（EC事業）の本格的な融合に向けた検討を進めました。具体的には当連結会計年度の後半期を中心に、システムインフラやリソースの面での再確認を行うとともに、経営資源の最適化及び事業セグメント間のシナジーの最大化並びに本部機能集約による効率性の追求を目的とした組織変更及びオフィス統合、物流センター統合の検討を進めました。

こうした取り組みの結果、当連結会計年度における古本市場事業の売上高は386億9千9百万円（前期比1.0%増）、営業利益は21億6千万円（前期比0.3%増）となりました。

アイ・カフェ事業

アイ・カフェ事業におきましては、季節限定のドリンク・フード類を充実させたほか、コミックスやネットゲームなどのコンテンツを拡充するなど顧客サービスの強化に取り組むと同時に、各種割引券を配布するなど販促活動に注力いたしました。連結子会社であるインターピア株式会社におきましては、次世代版の店舗運営POSシステムのさらなる改良及び拡販を図るとともに、店舗運営における売上向上やコストダウンをテーマとする新規サービスの商品化を進めてまいりました。

しかしながら、個人消費低迷の影響で顧客数の維持が難しい状況が続いたことに加え、売上が最も見込める夏季に天候が不順であつたこ



となどの影響により、当連結会計年度におけるアイ・カフェ事業の売上高は26億7千5百万円（前期比6.0%減）となりました。一方利益の面では、業務効率化を図り人件費等のコントロールに努めた結果、営業利益は3千5百万円（前連結会計年度は営業損失1億5千7百万円）と黒字を確保することができました。

EC事業

EC事業におきましては、商材を入替えながらリサイクル品の廉価販売を行うなど各種販促活動の実施により、売上拡大を図ってまいりました。なお、長年使っていた「@古本市場」から「古本市場オンライン」へサイトを一新しリニューアルオープンすると同時に、ツイッターなどのソーシャルメディア（ユーザーが情報を発信し、形成していくメディア）の機能を導入し、顧客利便性の向上に努めてまいりました。しかしながら、昨今の消費環境の悪化の影響等により、当連結会計年度におけるEC事業の売上高は4億6千万円（前期比9.6%減）、営業損失は2千8百万円（前連結会計年度は営業利益1百万円）となりました。

* 事業の種類別セグメント情報は10ページをご参照ください。

【新規出店】

ドミナントエリアにおけるさらなるシェア及び知名度向上を目指し、2009年12月から2010年4月にかけて、古本市場4店舗の出店を行いました。

2009年12月には、古本市場春日部緑町店（埼玉県）、古本市場長吉長原店（大阪府）の計2店舗を出店し、年末商戦における売上向上に貢献いたしました。また、2010年4月に古本市場名谷駅前店（兵庫県）、古本市場庄内店（大阪府）の計2店舗の出店を行い、今後の売上貢献の基盤創りを行ってまいりました。

2011年2月期におきましても、事業拡大の源泉である新規出店を古本市場直営店中心に引き続き行うことで、事業の安定的な成長を目指してまいります。



春日部緑町店



長吉長原店



名谷駅前店



庄内店

【古本市場オンライン リニューアルオープン】

当社は、2009年12月8日、古本及び新品、中古のゲーム・DVD・CDの販売・買取のインターネットECサイトを「@古本市場」から「古本市場オンライン」(URL: <http://www.furuonline.net>)へサイトブランドを一新し、リニューアルオープンいたしました。

今回のリニューアルの大きな特徴といたしましては、ツイッターなどのソーシャルメディア機能を導入し、今後のサービスに積極的に利用することです。サイトの最新情報は常にツイッターにて発信しており、入荷情報やキャンペーンのご案内、各種イベント情報などもツイッター上で行うことで、リアルタイムで配信することができるなど、より便利にご利用いただくことが可能となっております。

今後も様々なサービスを展開し、当社の企業理念である「満足を創る」を実現すべく努力してまいります。



【人財育成の強化】

当社グループは、成長戦略の基本的な考え方のひとつとして「人財育成の強化」により一層注力してまいります。

具体的には、「成果主義から貢献主義へ」をテーマに、お客様の満足を通じて会社及び社会への貢献ができる人、人を育てる人を評価するという方針のもと人事制度を抜本改正するほか、人財のプロフェッショナル化、中長期視点での人財育成を行うための能力開発プログラム、教育研修プログラムの充実を図ってまいります。

成長した人財こそが当社グループの成長の原動力、将来の付加価値創出の源泉となる考え方の下、上記の取り組みによる「一人ひとりの自立的な成長へのチャレンジを支援する」ことで、今後の中長期的な当社グループの成長を実現してまいります。

『満足を創る』- Creating Satisfaction ※お客様・従業員・取引先・株主・地域・行政

- 【ポジティブコア】～成長の源泉～
- I .常に最良の方法を追求する ～カイゼンとイノベーション～
 - II .ベンチャースピリッツ ～チャレンジ精神を忘れない～
 - III .倫理観 ～社会の要請にお応えする～

経営理念を実現するために
ポジティブコアを支えるために

テイツー人事ポリシー

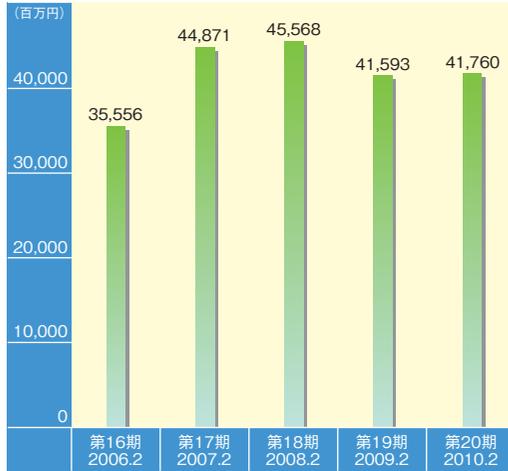
「一人ひとりの自立的な成長へのチャレンジが、テイツーの原動力」

1. テイツーは、商人力と高いレベルでのチームワークの発揮によって、会社へ貢献した人を評価し、報酬と新たなチャレンジの機会によって報じます。
2. テイツーは、人と組織の成長を支えるために、透明性の高い評価システムと対話を通じた納得性の高い評価プロセスを常に最良のものとするための努力を継続します。
3. テイツーは、経営理念「満足を創る」を体現する人を育てることが社会に対しての責任であると考え、能力と意欲ある人の成長を継続的に支援します。

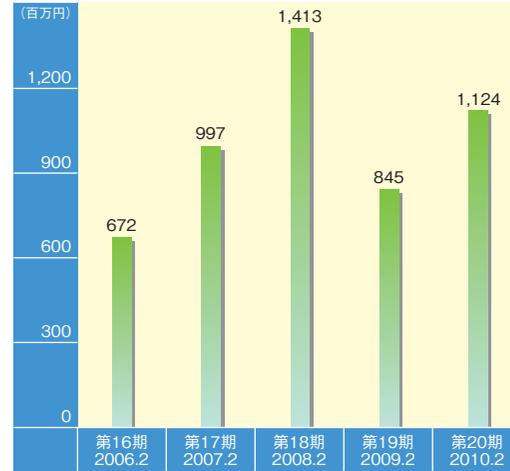
Financial Highlight

財務データ (連結)

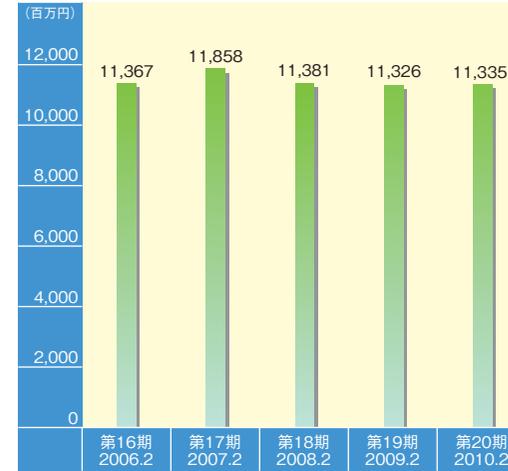
売上高



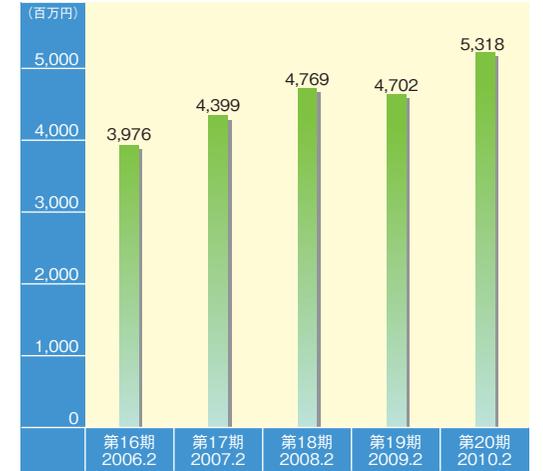
経常利益



総資産



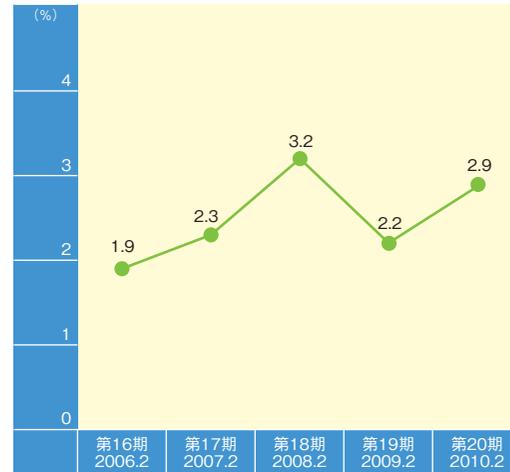
純資産



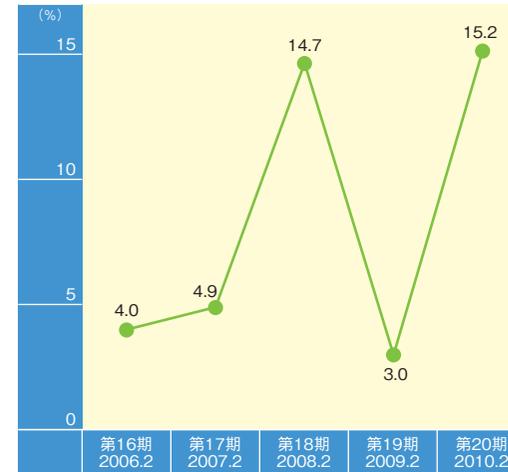
当期純利益



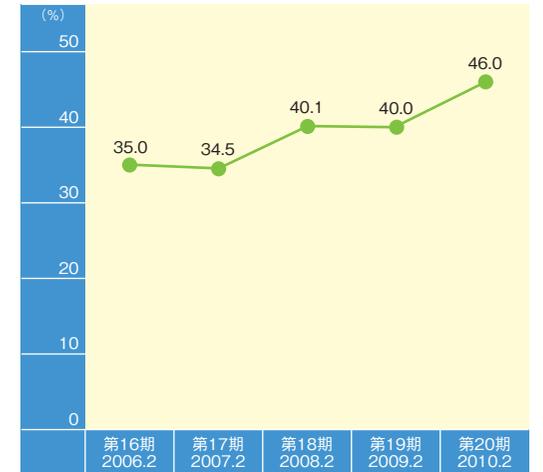
売上高営業利益率



自己資本利益率 (ROE)



自己資本比率



連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2010年2月28日現在)	前期 (2009年2月28日現在)	科目	当期 (2010年2月28日現在)	前期 (2009年2月28日現在)
【資産の部】			【負債の部】		
流動資産	5,780	6,072	流動負債	3,966	4,095
現金及び預金	1,099	1,391	買掛金	995	1,134
商品	3,660	-	短期借入金	600	690
たな卸資産	-	3,893	1年内返済予定長期借入金	867	972
繰延税金資産	237	180	未払金	427	490
その他	782	606	未払法人税等	115	57
固定資産	5,554	5,254	ポイント引当金	277	275
有形固定資産	2,222	2,025	その他	682	475
建物及び構築物	1,191	1,492	固定負債	2,050	2,528
土地	242	242	長期借入金	1,189	2,057
その他	788	290	その他	860	471
無形固定資産	340	335	負債合計	6,016	6,623
ソフトウェア	324	281	【純資産の部】		
その他	16	53	株主資本	5,209	4,534
投資その他の資産	2,991	2,893	資本金	1,165	1,165
投資有価証券	84	123	資本剰余金	1,119	1,119
長期貸付金	469	554	利益剰余金	3,169	2,621
繰延税金資産	735	410	自己株式	△244	△372
差入保証金	1,551	1,637	評価・換算差額等	0	△0
その他	150	167	その他有価証券評価差額金	△0	△1
			為替換算調整勘定	0	0
			新株予約権	27	20
			少数株主持分	81	147
			純資産合計	5,318	4,702
資産合計	11,335	11,326	負債純資産合計	11,335	11,326

ポイント解説 1

借入金の返済と利益剰余金の増加により自己資本比率が上昇いたしました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2009年3月1日から 2010年2月28日まで)	前期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)
売上高	41,760	41,593
売上原価	31,169	31,045
売上総利益	10,591	10,547
販売費及び一般管理費	9,384	9,652
営業利益	1,206	895
営業外収益	86	154
受取利息及び受取配当金	5	7
その他	80	146
営業外費用	167	204
支払利息	62	65
その他	105	138
経常利益	1,124	845
特別利益	29	9
特別損失	532	372
税金等調整前当期純利益	622	482
法人税、住民税及び事業税	265	361
法人税等調整額	△382	1
少数株主損失	△2	△19
当期純利益	741	138

ポイント解説 2

コスト削減が順調に進んだことにより、「営業利益」「経常利益」が大幅に増加しました。

ポイント解説 3

子会社合併に伴い繰越欠損金を引き継ぐことによる税額の減少及び税効果会計等の影響もあり、過去最高の連結当期純利益を達成いたしました。

事業の種類別セグメント情報

当期 (2009年3月1日から2010年2月28日まで) (単位:百万円)

	古本事業	7i・カネキ	EC事業	法人税	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	38,694	2,658	407	-	41,760
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	16	53	△74	-
計	38,699	2,675	460	△74	41,760
営業費用	36,538	2,640	488	887	40,554
営業利益	2,160	35	△28	△961	1,206

前期 (2008年3月1日から2009年2月28日まで) (単位:百万円)

	古本事業	7i・カネキ	EC事業	法人税	連結
売上高					
外部顧客に対する売上高	38,307	2,846	439	-	41,593
セグメント間の内部売上高又は振替高	4	0	70	△75	-
計	38,312	2,847	509	△75	41,593
営業費用	36,158	3,004	508	1,026	40,697
営業利益	2,153	△157	1	△1,101	895

ポイント解説 4

本部経費の圧縮などの業務効率化や人件費等のコントロールに努めた結果営業利益が大幅に増加し、黒字に転換いたしました。

Financial Data

連結財務諸表

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2009年3月1日から 2010年2月28日まで)	前期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,461	132
税金等調整前当期純利益	622	482
減価償却費	672	533
たな卸資産の増減額(△は増加)	179	△80
その他営業活動による増減額	244	143
小計	1,719	1,078
法人税等の支払額	△228	△882
その他	△28	△63
投資活動によるキャッシュ・フロー	△325	△501
有形固定資産の取得・売却による収支	△199	△305
無形固定資産の取得による収支	△170	△102
差入保証金の差入・回収による収支	39	△26
その他	4	△67
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,428	622
短期借入金の純増減額	△90	△100
長期借入金の借入・返済による収支	△972	884
その他	△366	△161
現金及び現金同等物の増加額	△291	253
現金及び現金同等物の期首残高	1,308	1,054
現金及び現金同等物の期末残高	1,016	1,308

ポイント解説 5

税金等調整前当期純利益の増加、たな卸資産の圧縮、法人税等の支払額の減少などの影響により対前期比で大幅に増加いたしました。

ポイント解説 6

長期借入金の返済、リース債務の返済、配当金の支払により減少いたしました。

連結株主資本等変動計算書

当連結会計年度 (2009年3月1日から2010年2月28日まで)

(単位:百万円)

	株主資本					評価・換算差額等		新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	為替換算 調整勘定			
2009年2月28日残高	1,165	1,119	2,621	△372	4,534	△1	0	20	147	4,702
連結会計年度中の変動額										
剰余金の配当	—	—	△130	—	△130	—	—	—	—	△130
当期純利益	—	—	741	—	741	—	—	—	—	741
自己株式の取得	—	—	—	△14	△14	—	—	—	—	△14
合併に伴う自己株式の処分	—	—	△63	142	78	—	—	—	—	78
株主資本以外の項目の連結 会計年度中の変動額(純額)	—	—	—	—	—	0	—	6	△66	△58
連結会計年度中の変動額合計	—	—	547	127	675	0	—	6	△66	616
2010年2月28日残高	1,165	1,119	3,169	△244	5,209	△0	0	27	81	5,318

Financial Data

財務諸表

貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期 (2010年2月28日現在)	前期 (2009年2月28日現在)
【資産の部】		
流動資産	5,546	5,436
現金及び預金	968	949
商品	3,659	3,791
その他	918	695
固定資産	5,670	4,542
有形固定資産	2,217	1,464
建物	1,051	886
その他	1,165	578
無形固定資産	333	269
投資その他の資産	3,120	2,807
差入保証金	1,538	1,323
その他	1,582	1,484
資産合計	11,217	9,978
【負債の部】		
流動負債	3,869	3,303
買掛金	899	1,071
短期借入金	600	500
1年内返済予定長期借入金	867	672
その他	1,501	1,059
固定負債	2,048	2,030
長期借入金	1,189	1,604
その他	859	425
負債合計	5,918	5,333
【純資産の部】		
株主資本	5,272	4,626
資本金	1,165	1,165
資本剰余金	1,119	1,119
資本準備金	1,119	1,119
利益剰余金	3,231	2,713
自己株式	△244	△372
評価・換算差額等	△0	1
その他有価証券評価差額金	△0	1
新株予約権	27	20
純資産合計	5,299	4,645
負債純資産合計	11,217	9,978

損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期 (2009年3月1日から 2010年2月28日まで)	前期 (2008年3月1日から 2009年2月28日まで)
売上高	39,781	38,327
売上原価	29,709	28,479
売上総利益	10,072	9,848
販売費及び一般管理費	8,894	8,833
営業利益	1,178	1,014
営業外収益	85	134
営業外費用	155	176
経常利益	1,109	973
特別利益	15	4
特別損失	499	440
税引前当期純利益	625	537
法人税、住民税及び事業税	261	347
法人税等調整額	△348	1
当期純利益	712	188

Stock Information

株式の状況 / 会社の概要

株式の状況 (2010年2月28日現在)

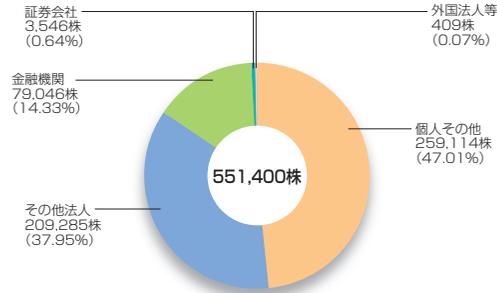
■ 発行可能株式総数	2,000,000株
■ 発行済株式の総数	551,400株
■ 株主数	5,935名

大株主

株主名	持株数	出資比率
有限会社ワイ・エイ・ケイ・コーポレーション	165,000 株	29.92 %
秋山良夫	23,238	4.21
株式会社山陰合同銀行	21,000	3.81
ティーツー従業員持株会	16,382	2.97
大橋康宏	10,752	1.95
株式会社中国銀行	10,592	1.92
株式会社みずほ銀行	10,000	1.81
東京海上日動火災保険株式会社	10,000	1.81
株式会社トマト銀行	8,000	1.45
株式会社アイシービー	7,300	1.32

(注) 当社は自己株式32,926株を保有しておりますが、表記していません。

所有者別株式分布状況



会社の概要 (2010年2月28日現在)

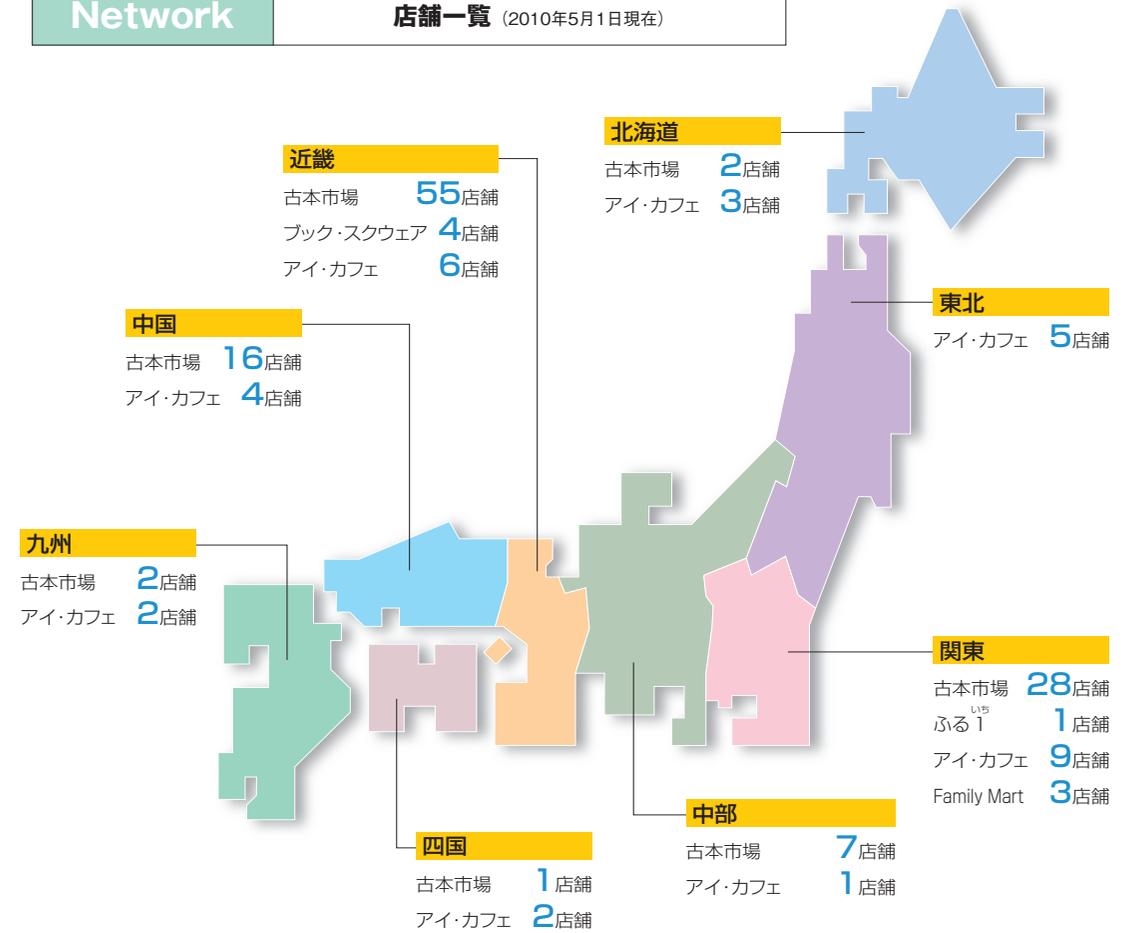
商号	株式会社ティーツー
英訳名	TAY TWO CO.,LTD.
店舗名	古本市場、ふる ^{いち} 、アイ・カフェ、ブック・スクウェア、Family Mart
創業	1989年10月
設立	1990年4月
本社	岡山県岡山市北区今村650番111 TEL (086) 243-8600
東京本部	東京都港区芝公園二丁目4番1号 ダヴィンチ芝パークA館8F TEL (03) 5408-5100
代表者	代表取締役社長 大橋 康宏
*資本金	1,165,507千円
*従業員数	478名 パート・アルバイト1,719名

役員 (2010年5月26日現在)

代表取締役社長	大橋 康宏
取締役副社長	堀 久志
常務取締役	片山 靖浩
取締役	関本 慎治
取締役	寺田 勝宏
取締役(社外)	安田 育生
取締役(社外)	吉田 就彦
常勤監査役(社外)	武田 由隆
常勤監査役(社外)	西川 豊
常勤監査役(社外)	北村 清人
監査役(社外)	平田 修

Network

店舗一覧 (2010年5月1日現在)



新店舗

古本市場

春日部 緑町店	埼玉県春日部市緑町5-7-25	2009年12月3日オープン
長吉 長原店	大阪府大阪市平野区長吉長原東3-1-65	2009年12月3日オープン
名谷 駅前店	兵庫県神戸市須磨区中落合3-1-10 LUCCA 名谷2F	2010年4月1日オープン
庄内 店	大阪府豊中市庄内東町3-1-41 グローバルハイツ豊中1F	2010年4月15日オープン

*各店舗の詳細につきましては、下記のURLをご参照ください。

<http://www.furu1.net/index.html>